湘南医療大学

ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　保健医療学部看護学科臨床看護領域
　　大学院保健医療研究科健康増進
　　看護キャリア開発コアセンター
名　前　渡部　節子
作成日　2026 年 5 月 29 日

Ⅰ　教育の責任

2022 年度　　**（ ）は担当内容**

1.　担当科目

【看護学科】(すべて必須科目)

1 年次生:基礎実習(講義・演習)、ナーシングスキルⅠ(講義・演習)

2 年次生:成人看護学(講義)

3 年次生:成人看護方法論Ⅰ(講義)、成人看護学実習Ⅰ(実習)・成人看護学実習Ⅱ(実習)・成人看護学実習Ⅲ(実習)

4 年次生:看護研究Ⅱ(講義・演習)、統合実習(実習・研究指導)、チーム医療論

【大学院

・がん看護学:健康増進・予防特別研究(副指導)

・高度実践看護師教育課程感染看護学の申請、合格

2.　教育活動

看護学科内学生支援委員会(委員)、3 年次チューター(委員)、研究倫理委員会(委員)利益相反委員会(委員)、不正防止推進委員会、オープンキャンパス(市民講座、学科紹介、個人相談)、入試関連(学科・大学院入学試験の面接官、学科・大学院入試に関する高校・施設訪問)、定期試験監督

2023 年度　**（ ）は担当内容**

1.　担当科目

【看護学科】(すべて必須科目)

1 年次生:基礎ゼミ(講義)、基礎実習(実習)、生涯成長発達論(講義)

2 年次生:成人看護学(講義)、ナーシングスキルⅡ(講義・演習)

3 年次生:成人看護方法論Ⅰ(講義)、、成人看護学実習Ⅱ(実習)・成人看護学実習Ⅲ(実習)

4 年次生:看護研究Ⅱ(講義・演習)、統合実習(実習・研究指導)、応用ゼミ(講義)、チーム医療論(グループ指導)

【大学院】(すべて選択必須科目)

・がん看護学:健康増進・予防特別研究(副指導)

・感染看護学:感染看護学特論Ⅰ(講義・演習)、感染看護学特論Ⅱ(講義・演習)、感染看護学特論Ⅲ(講義・演習)、感染看護学特論Ⅳ(講義・演習)、感染看護学演習Ⅰ(講義・臨床での演習)、感染看護学演習Ⅱ(講義・演習・実験)、感染看護学実習Ⅰ・Ⅱ(臨床での実習指導)、健康増進・予防特別研究(感染看護学 CNS 教育課程)(主指導:講義・演習)

健康増進・予防特別研究（修論審査員 2 名）

2. 教育活動

4 年次チューター長、国家試験対策委員会（委員長）、入学前教育、看護学科内学生支援委員会（委員）、研究倫理委員会（委員）、利益相反委員会（委員）、不正防止推進委員会、オープンキャンパス（個人相談）、入試関連（学科・大学院入学試験の面接官、大学院入試作問と採点、学科・大学院入試に関する高校・施設訪問）、定期試験監督

2024 年度 （ ）は担当内容

1. 担当科目

【看護学科】（すべて必須科目）

1 年次生：基礎ゼミ（講義・演習）、ナーシングスキル Ⅰ（講義・演習）、
生涯成長発達論（講義）

2 年次生：成人看護学（講義）、ナーシングスキル Ⅱ（講義・演習）

3 年次生：成人看護方法論 Ⅰ（講義）

4 年次生：看護研究 Ⅱ（講義・演習）、統合実習（実習・研究指導）、チーム医療論

【大学院】（すべて選択必須科目）

1）修士課程

・感染看護学：感染看護学実習 Ⅲ（実習指導）、
健康増進・予防特別研究（感染看護学 CNS 教育課程）（主指導）

・助産学：感染看護学特論 Ⅱ（講義・演習）

・健康増進・予防特別研究（修論審査員1名）

2）博士課程

・健康支援ケアシステム特論（講義）

2. 教育活動

2年次チューター、保健医療学部学生支援委員会委員、看護学科内学生支援委員会（委員）、研究倫理委員会（委員）、利益相反委員会（委員）、不正防止推進委員会（委員）、オープンキャンパス（学科、大学院の個人相談）、入試関連（大学院入学試験の面接官、作問と採点、学科・大学院入試に関する高校訪問、高校における講義）、定期試験監督、地域への貢献（障害者施設の講義・演習、大学として研修会講義）、新カリキュラムアセスメント WG、3 年次学内実習プログラム3

2025 年度 （ ）は担当内容

1. 担当科目

【看護学科】（すべて必須科目）

1 年次生：基礎ゼミ（講義・演習）、ナーシングスキル Ⅰ（講義・演習）、

2 年次生：成人看護学（講義）、ナーシングスキル Ⅱ（講義・演習）

3 年次生:成人看護方法論Ⅱ(講義)

4 年次生:統合実習(実習)、チーム医療論

【下田看護専門学校】

2 年次生:臨床看護学

【大学院】(すべて選択必須科目)

1) 修士課程

・感染看護学:感染看護学特論Ⅰ(講義・演習)、感染看護学特論Ⅱ(講義・演習)、感染看護学特論Ⅲ(講義・演習)

・健康増進・予防特別研究(感染看護学 CNS 教育課程)(主指導 2 名:講義・演習)

2)博士後期課程

・看護学特別研究(副指導 2 名)

【卒後教育】

2026 年度感染管理認定看護師 B 課程(特定行為研修含む)開講に向けての準備

2. 教育活動

3 年次チューター、保健医療学部学生支援委員会(委員)、看護学科内学生支援委員会(委員)、研究倫理委員会(委員)、オープンキャンパス(学科、大学院の個人相談)、入試関連(学科面接官、大学院入学試験の面接官、学科・大学院入試に関する高校訪問、高校における講義)、定期試験監督、新カリキュラムアセスメント WG)

2026 年度 ( )は担当内容

1. 担当科目

【看護学科】(すべて必須科目)

1 年次生:基礎ゼミ

2 年次生:成人看護学

3 年次生:成人看護方法論Ⅱ

4 年次生:プロフェッショナル論、応用ゼミ、統合実習(実習)、チーム医療論

【下田看護専門学校】

2 年次生:臨床看護学

【大学院】(すべて選択必須科目)

1) 修士課程

・感染看護学:感染看護学特論Ⅱ～Ⅴ、感染看護学演習Ⅰ Ⅱ、感染看護学実習Ⅰ

・健康増進・予防特別研究(感染看護学 CNS 教育課程)(主指導3名)

2) 博士後期課程

・保健医療学実践研究、健康支援ケアシステム学特論、健康支援ケアシステム学演習、・看護学特別研究(副指導 3 名)

3) 卒後教育、感染管理認定看護師養成課程(B 課程)

・感染管理学、医療関連感染サーベイランス、感染防止技術、職業感染管理、感染管理指導・相談、洗浄・消毒・滅菌とファシリティー・マネージメント、指導、統合演習、臨地実習

2. 教育活動

1）大学組織

保健医療学部学生支援委員会（委員）、研究倫理委員会（委員）、輸出管理委員会
看護キャリア開発コアセンター会議

2）学科内

4年次チューター（副委員長）、国家試験対策委員会、看護学科内学生支援委員会（委員）、オープンキャンパス（学科、大学院の個人相談）、入試関連（学科面接官、大学院入学試験の面接官、学科・大学院入試に関する高校訪問、高校における講義）、定期試験監督、新カリキュラムアセスメントWG）

4）看護キャリア開発コアセンター内

主任教員、入試関連

Ⅱ 私の理念・目的

1. 私の理念

私は看護教員として計38年の看護教員経験があるが、。このような長期間の看護教員生活の中で自分なりに大切していることは変化している。看護専門学校時代は国家試験合格のためにどれだけ多くのことを伝えていけるか？臨地実習では患者さんから何を学修させるのか？等が教育の中心であったように記憶している。しかし、自分なりに看護教員としての経験を積み、また、時代も変化していく中で国家試験合格は最低限のことであり、それは教え込むというよりも学生自ら学修することの必要性を感じさせることが重要と考えている。そこで、今、大学における看護教育者として大切としているのは下記の通りである。

①看護学生は、患者さんや教員などとの人と人の関係性の中で楽しいこともつらいことも乗り越えながら成長していく。教員は、学生を信じて個の成長を見守ることが重要である。

② 教員自身が専門領域の研究を行い、教育において常に最前線の情報を提供すると共に、学修し続ける背中を学生に見せることが必要である。

2. 理念をもつに至った背景

① について

特に印象に残っているエピソードである。大学祭前日に研究室の前を泣きながら歩いている学生がいたので声をかけたところ「大学祭の催しもので使用する白いシーツを予約し損なったので直接貸し出しのお願いに○○先生のところへ行ったが、決まりは決まりと言って貸し出してもらえなかった。」とのことであった。決められたことを守れないことは看護師として良いこととは言えないが、学生が泣くほど困っていたため、反省を促した上で、仲介に入っ

たが貸し出しはしてもらえなかった。そこで、私の判断で自分の領域のシーツを貸し出し、大学祭の催しものは無事に実施することができた。大学祭の当日、学生は両親を連れて私に謝罪とお礼を言いにきた。貸し出しをしないという教育観の教員が悪いわけではないとは思うが、私は今回の失敗を糧に決定事項を遵守することの必要性を学修させることができるのではないかと判断したのである。学生は実習における患者さんとの関係からの学び、そして、教員との関係から人間性を成長させられると信じている。数年後、その学生に会う機会があった際、「あの時に先生に助けられたことは今でも忘れません」と言われた。心から学生を信じて見守る必要性を実感し、これからも教育の成果は時間がかかることを肝に銘じていたい。

②について

大学教育において研究をほとんど行わないまま毎年テキストに沿って同様の内容の講義・演習を行っている教員がしばしば見受けられる。しかし、専門学校と何が異なるのか？それは、大学教育は、教員が研究している最前線の研究成果を世に送り出しながら自分の講義・演習・実習の中で学生に伝えていくことが必要と考える。特にテキストは出版されるまでに数年間、時間を要すために新しい知見は遅れてしまう。特に私が担当している感染に関連するエビデンスなどは刻々と変化してしまうので自分なりに正確な情報を収集しながらの講義・演習となる。また、講義・実習の中で伝えてきたことを臨地実習の中で患者さんの看護を通しながら深化させていくことも必要である。また、教育方法も一方的な説明ではなく、学生自ら考える力を養うことが必要と思う。臨床現場は患者さん個々に違いがあるため基礎教育においては原則を基にその患者の状況に対応する必要がある。学生は高校までは試験を過ぎれば何とかなると考えている場合が多いが、臨床では学んだことが実践に反映されるため、1 ケース 1 ケースにおいてリフレクションして常に勉強し続けなければならないことも我々教員の姿勢から理解してもらうことも教育の 1 つと考える。

Ⅲ. 教育の方法・戦略

1. 教授方法の概要

1）講義について

1～4年次生は 160 名から 180 名のため一斉講義が多くなりやすい。しかし、テキストに記載されていない最新情報を提供したり、イメージがつきにくい内容に関しては DVD 等を使用する。最新情報は、学術集会や研修会などへの参加によりアップデートするように努力し、講義途中や最後のミニテストを実施し、講義に集中するように工夫している。90 分講義は集中時間が途切れることも多いので個人やグループで考えたり、意見交換できるようにする。

2）演習について

演習は、学生数が多いこと、自由なスペースがないこと、図書が充実していないことなどから一斉講義になりやすい。しかし、演習に関しては単に形式的に技術を習得するのではなく、エビデンスに基づき、臨床において応用が効くように能動的な学修方法であるアクティブラーニングを活用している。アクティブラーニングの中でも参加型学習手法を活用している。

2. 教授方針と具体的な方法

講義でも演習においても知識や技術を覚えるという受動的な学習ではなく、それまで習得した知識を関連させたり、統合させたりさせたい。また、演習では特に形式的に技術を真似るのではなく、エビデンスに基づき、応用が効くように能動的な学修方法としたい。

具体的な方法として、演習においては能動的な学修方法であるアクティブラーニングを活用している。特にアクティブラーニングの中でも参加型学習手法を活用している。具体的には演習については、1 ヶ月前ほどに事前学習内容を提示し課題に関して準備させる。事前学習内容は、演習当日に各グループ（3～4 人）の担当教員に確認していただくが、提出はさせない（自分の学修ノートとして保管させる）。演習時は、まずオリエンテーション後に事前学修をもとに各グループで実施し、実施した感想・問題点や質問などをワークシートに記載させ、その後にグループ単位で発表させる。各グループから出た問題点や質問を踏まえながら教員がデモンストレーションを実施する。その後に全員が再度実施し、感想（できた点、できなかった点、どのようにしたらできるようになるか？）をワークシートにまとめて提出後に返却する。

Ⅳ. 学修成果

1. 学科生

＊学生からの感想・評価

担当科目がオムニバスのため、担当箇所の講義・演習における学生の評価は困難である。また、ワークシートも学生に返却するため評価が困難なため、感想カードの一部抜粋する。

・授業を受けたことで、看護の実践における重要な視点を多く学んだ。
・ターミナルの患者さんにどのような看護が必要でどのような最期を迎えさせることが最善なのかを考えさせられる授業でした。
・エピソードを交えて授業をしてくださったのが分かりやすかったです。
・働いていた頃の失敗談を沢山聞いて、失敗から学ぶということを沢山経験されているんだなと感じたし、私たちにもためになるお話なので、これからも現場での体験談を沢山お話してほしい。

2. 大学院生

2023 年入学した感染看護学専門看護師教育課程の学生 1 名に関して必要な履修単位を修得させ、修了に至った。修士論文の発表は学会にて発表し、投稿論文は採択され、掲載された。また、成績優秀者を対象にした学生支援機構からの奨学金免除申請にあたって学内会議において了承され、採択された。今年度は資格試験受験予定のため、合格するように支援する。2025 年度入学生 2 名はふれあいグループ施設（病院）に在職しながら 3 年間コースで、必要な単位が認定された。今年度は修士論文のための倫理審査、データ収集を進め、必要な単位が認定されるように支援していく。2026 年度入学生 1 名は、外部施設であるが M2 と同様に 3 年コースであることから両立しながら必要な単位が修得できるように支援する。

3, 卒後教育(感染管理認定看護師養成課程

2026 年度より開講した課程である。現任教育を目的とした課程であるが、1 年間の中で特定行為研修と認定看護師教育課程を履修しなければならないため、必要な科目が終了するように支援する。また、修了後、資格試験を受験する必要があることから資格試験に合格できるような教育内容になるように工夫する。

Ⅴ. 改善のための努力

1. 学科生

講義において覚えるというよりも学習の必要性を理解するために能動的な方法の検討が必要である。個人的に実施できることとして

① 1 年次生は、大学教育に慣れていないことや、各科目の関連や統合することの必要性などが理解できていないのでまずは関連や統合の必要性が理解できるように事前学習をさせた上で、講義前後にクイズ形式の質問をするなど工夫をする。

② 2・3年次生は、1 年次で学習したことや、他科目との関連や統合することの必要性などの理解させるために事前学習やその内容を元に講義開始時にミニテストを実施する。

③ 4 年次生はそれまでの学習内容を統合できるようにする。

④ 各学年においても学習している内容と臨床を結びつけるような具体例や事例を示していく。

2. 大学院生

在学中の学生は感染症看護専門看護師教育課程であるため、終了後に臨床で活かすことができ、さらに資格試験に合格できるような教育内容の工夫をする。また、2 学年の学生がいるために互いに切磋琢磨できることや、他領域の院生と合同ゼミなどを実施してタコつぼ状態にならないように刺激し合える環境作りを積極的に進める。

Ⅵ. 今後の目標

1. 長期目標

1) 学科生が卒業後、ふれあいグループ病院で就職後 3 年以降に実習指導者の役割をとったり、卒業生の一部は本大学院を受験したり、現任教育を受ける。

2) 大学教員と臨床現場の方々と共同研究を行い、研究成果が学科及び大学院の講義や臨床現場に活かすことができる

2. 短期目標

1) リアクションペーパーにおいて単なる感想ではなく、“講義内容が理解した”と推察される記載内容が半数以上ある。

2) 担当した科目の定期試験において再試験も含めて 100%合格する

3) 感染症看護 CNS 教育課程の修了生が CNS 試験に合格する。